

2022 年度教育研究活動報告用紙（様式 9）

| | | | | | |
|----|--------|----|----|----|--|
| 氏名 | 前田 由紀子 | 職名 | 教授 | 学位 | 修士（教育学）（九州大学 2004 年） 博士（教育学）（福岡大学 2010 年） |
|----|--------|----|----|----|--|

| | |
|-------------|------------------------------------|
| 研究分野 | 研究内容のキーワード |
| 精神看護学、看護教育学 | 精神科看護師、現象学、家族、地域、リカバリー、ストレングス、キャリア |

| |
|---|
| 研究課題 |
| 精神科看護師のキャリア形成に関する研究 精神科看護におけるリカバリーに関する研究 |

| |
|---|
| 担当授業科目 |
| 精神看護学概論（後期）（看護学科） 精神看護方法論（後期）（看護学科） 精神看護学演習（前期）（看護学科） 精神看護学実習（通年）（看護学科） 看護総合演習（前期）（看護学科） 看護総合実習（前期）（看護学科） 看護学特論（後期）（看護学科） 看護教科教育法Ⅰ（前期）（看護学科） 看護教科教育法Ⅱ（後期）（看護学科） |

| |
|--|
| 授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項） |
| <p>授業科目名【精神看護学概論】</p> <p>心の健康を保持・増進するための援助法の基礎を教授した。人との関わりがケアの基本となる精神看護を理解し、精神疾患を持つ人に限らず精神的援助のあり方を強調した。学生の能動的な学習を促すために、「発達段階と危機」の講義後に「ライフサイクルの危機とその支援」というテーマでレポートを作成させ、自らの危機と支援された状況について考察させ、精神の発達について理解を図った。学生の反応として、メンタルヘルスに関心が深まったという感想が多く聞かれた。新型コロナウイルス感染症のため、感染予防に留意し対面授業を進めた。</p> |
| <p>授業科目名【精神看護方法論】</p> <p>精神看護学概論で学んだ基礎知識を活用しながら、精神の健康の維持および精神疾患からの回復を援助するための原理と方法を教授した。精神障害は、イメージがしにくいため視聴覚教材を活用することで理解が図られる。精神疾患の教材 DVD は、マイナスのイメージのみが、先行することがしばしばあるため、テレビやインターネットの動画などで、精神疾患を持つ人の健康な面が理解できるようなものを選んで視聴させた。精神疾患についてノート整理、国家試験問題を解く、精神科関連の著作を読むなどの課題を出し、ポートフォリオの作成を行った。課題は、複数回に分けて提出させ、内容の不備がある場合、適宜指導を行った。新型コロナウイルス感染症のため、感染予防に留意し対面授業を進めた。</p> |

| |
|--|
| <p>授業科目名【精神看護学演習】</p> <p>精神疾患、症状、治療など基礎的知識を確認後、統合失調症の事例をグループで展開した。精神に障がいをもつ人の援助に適切とされるオレム・アンダーウツの理論とストレングスモデルを用い、精神障がい者やその家族のケアについてグループで十分にディスカッションを行った。例年、実習病院の指導者が演習に参加し、精神科看護のイメージが捉えやすくなっていたが、コロナの影響で前年度に引き続き今年度もできなかった。実習の実施も危ぶまれたため、模擬電子カルテを取り入れ演習を実施した。また、病棟がイメージしやすいような DVD を購入し適宜活用した。例年、夏期課題として、うつ病の事例展開や実習に必要な基礎力の定着を目的にワークブックを作製していたが、知識の定着を確実にするため夏期課題を取りやめ実習前の試験を実施した。知識定着が不十分な学生に対して再試の実施や個別指導を行った。</p> |
| <p>授業科目名【精神看護学実習】</p> <p>実習前は、事前学習（精神疾患、精神看護、精神科リハビリ等の基礎知識）の徹底を図り、学習不足の学生には課題を与え、指導を行った。新型コロナウイルス感染症の影響で、現地オリエンテーションは、実施できる病院とできない病院が出てしまった。できない場合は、実習病院から資料をいただき教員が説明したり、実習指導者に大学でオリエンテーションおよび講義をしていただいた。新型コロナウイルス感染症の影響で、臨地実習が実施できたのは3施設のうち1施設のみであった。1施設以外は、学内実習またはリモート実習で対応した。教員が患者役を担い、学生との対話を進めた。教員は、統合失調症やうつ病の患者役になりきり、対話を中心に進めることで患者理解が図られた。学内実習時は、感染予防に留意し、感染状況によって適宜リモートを取り入れた。</p> |
| <p>授業科目名【看護総合演習】【看護総合実習】</p> <p>5人の学生を担当し、精神看護領域の総合演習、総合実習に取り組んだ。今年度は、精神障がい者の訪問看護と精神科デイケアを総合実習の施設として展開した。精神障がい者の地域生活の理解が深まったと考える。4年間の統合の科目となるため、学生の自主性を重視し、学習を進めた。演習では、精神障がい者の在宅看護や就労支援、デイケアに関する文献検索を行い、当番制で文献クリティーク、ディスカッションを行い、思考を深めることに努めた。学生の問題意識に沿ったテーマで論文を作成し、研究的思考が反映されるように支援した。論文完成後は、パワーポイントを作成しゼミで発表会を行った。実習は、新型コロナウイルス感染症の影響で、精神科訪問看護のみ臨地実習を実施した。地域で生活している精神障害者の DVD や精神科病院のコロナ感染症対応のテレビ番組などを視聴しグループディスカッションを繰り返し精神障害者の地域ケアについて考察を深めさせた。</p> |
| <p>授業科目名【看護学特論】</p> <p>本科目は、成人看護学（急性期・慢性期）、母性看護学、小児看護学、精神看護学、老年看護学、在宅看護論の7つの領域でオムニバスで実施した。そのうちの精神看護学を担当した。精神科ファーストエイドの講義後に最近のトピックスや国家試験に関連ある内容を講義した。対象学生が少数であったので次年度はもっと多くの学生が受講するよう、本科目の意義を説明したい。</p> |
| <p>授業科目名【看護教科教育法Ⅱ】</p> <p>看護教科教育法Ⅰの学びを活かし、看護基礎教育における「演習」「実習」の学習形態の特徴等について関連する本を読むことで広い視野で考えることができるように指導し、講義と演習の一体的な授業設計について意見交換をすることができた。臨地実習の経験後であったため、臨地実習における指導計画・指導方法について、実習の特性、指導法について具体的に考えさせることができた。模擬授業は、「演習」の授業形態について授業案の作成を指導し、実習室における練習を重ねた。模擬授業の展開後は、授業を客観的に評価するとともに、授業研究の必要性の理解にもつなげた。</p> |

| 学 会 に お け る 活 動 | | |
|-----------------|----------|----------------|
| 所属学会等の名称 | 役職名等（任期） | 加入時期 |
| 日本看護学会 | | 1984年4月～現在に至る |
| 日本看護科学学会 | | 2003年4月～現在に至る |
| 日本看護研究学会 | | 2003年4月～現在に至る |
| 日本精神保健看護学会 | | 2007年10月～現在に至る |
| 日本医学看護学教育学会 | | 2007年10月～現在に至る |
| 日本精神科看護技術協会 | | 2008年4月～現在に至る |

| | | |
|-----------|--|---------------|
| 日本看護学教育学会 | | 2008年4月～現在に至る |
|-----------|--|---------------|

| 2022年度 研究業績等に関する事項 | | | | |
|--|---------|-----------|--|---|
| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著の別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称 | 概要 |
| (著書) | | | | |
| (学術論文) | | | | |
| (翻訳) | | | | |
| (学会発表) 1. The Study of Work Motivation of Psychiatric Nurses in Japan [Poster] | 単 | 2022.10 | 7th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (7th WANS), Taiwan | ①本研究の目的は日本における精神科に勤務する看護師が専門看護師および認定看護師の資格を取得する過程とワーク・モチベーションの関連を検討することである。資格取得の動機は、組織的な目標管理の下ではなく、個々の問題意識からキャリアアップを目指すという特徴があった。専門看護師・認定看護師は、認定後の経験から看護実践能力の向上が「達成動機」、役割遂行が「権力動機」、仲間とのかかわりが「親和動機」になる。これら3つの動機がワーク・モチベーションの向上に関連すると考えられた。 |
| 2. A Literature Study on Strength-Focused Nursing Care by Visiting Nurses in Japan [Poster] | 共 | 2022.10 | 7th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (7th WANS), Taiwan | ①本研究の目的は、日本における精神科訪問看護師がストレングスに焦点をあてた関りを行う中で利用者の状態の悪化や困難時にどのような看護を行っているのかを明らかにすることである。文献研究において、訪問看護師は根気強く利用者との対話を重ね信頼関係を築き、利用者のリカバリーを共に考え希望を持ち続けられるように支持していくことが重要であり、再入院の予防や利用者のリカバリーの促進につながるということが明らかとなった。 ②共同発表者：安藤 愛、前田 由紀子、坂部 滯 |

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

| 研究題目 | 交付団体 | 研究者 ○代表者（）内は学外者 | 交付決定額 (単位：円) |
|------|------|--------------------|-----------------|
| | | | |

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

| 研究題目 | 交付団体 | 交付決定額 (単位：円) | 備考 |
|------|------|-----------------|----|
| | | | |

社会における活動等

| 団体・委員会等の名称 (内容) | 役職名等 | 任期 期間等 |
|--------------------|------|-----------|
| | | |

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

| |
|--|
| [大学委員会] 将来計画委員 2022年4月1日～現在 研究紀要委員会 2022年4月1日～2023年3月31日 [学科委員] 国家試験対策委員 2020年4月1日～2023年3月31日 看護学科プロジェクト委員 2022年4月～2023年3月31日 |
|--|